

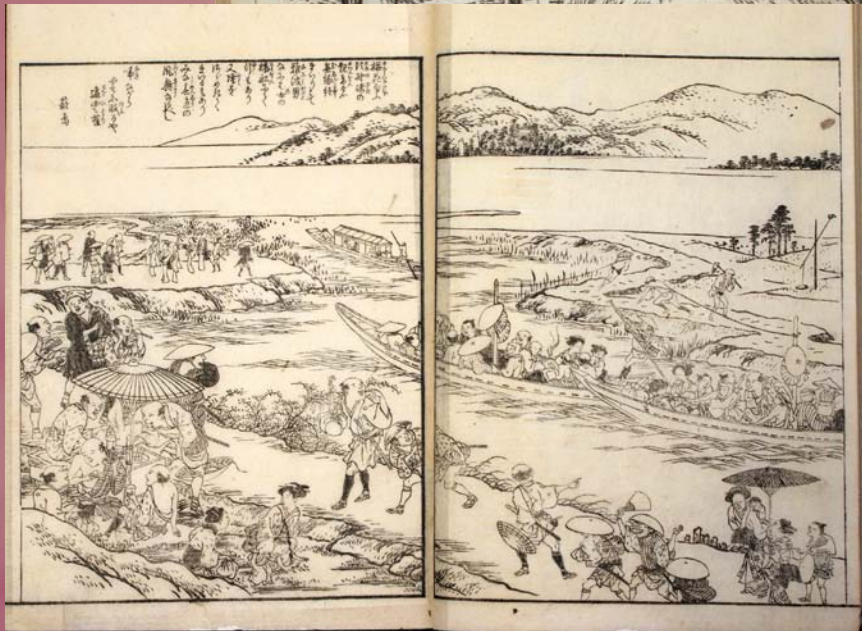
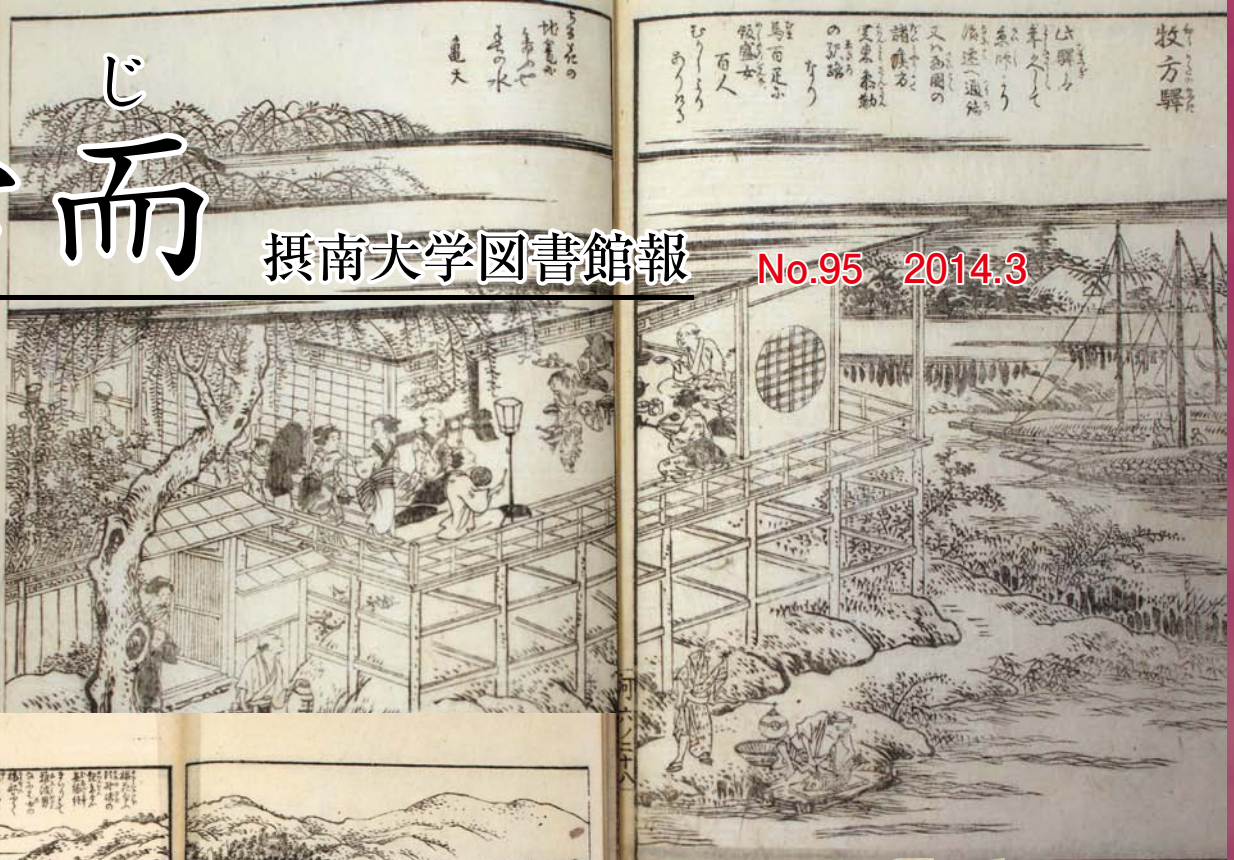
がく 学 而

摂南大学図書館報

No.95 2014.3

枚方宿(駅)

枚方宿(現枚方市)は枚方駅とも称され、京・大坂交通の拠点として旅館「鍵屋」が密集する「鍵屋浦」と呼ばれる一帯があった。そこでは上下の船が行き来し、昼時には飯茶を売る「くらわんか船」が「淀川三十石船」に横付けしていた。



野崎参り 「野崎参りは一屋形船で参ろー」と謡われた野崎観音福聚山慈眼寺は、河内国旧野崎村(現大東市)に存在する。本図会の中の野崎参りの絵は徳庵(現大阪市鶴見区)の辺りを描いた風景で、深野新田(現大東市)の中に水路が造られ、春には野崎参りの屋形船でにぎわった。



河内名所圖會(かわちめいしょづえ)

河内国(淀川左岸以南の大阪東部)の名所を絵と文書で紹介した江戸中期の地誌(現在の旅行ガイドのようなもの)。

[本館地階 貴重図書室保管]

<CONTENTS>

図書館のこれから

図書館長 小川 英一2

読書と地図年表による知のネットワーク

理工学部 教授 佐野 潤一4

図書館を組織論的に考えてみる

経営学部 教授 岩田 浩6

トピックス8

枚方分館ニュース9

図書館利用統計10

図書紹介11

アンケート結果紹介12

データベース利用法紹介14

摂大文化大賞、編集後記16

図書館のこれから

図書館長 理工学部 教授 小川 英一

今年度末で図書館長を退任することとなった。この2年間大過なく職責を全うできたことにお礼を申し上げるとともに、今後は図書館の発展を祈って外部から見守っていきたい。少しやり残して心残りの部分もあり、最後にこれからの図書館として今後取り組んでいただきたい課題について、この場をお借りして私見を述べさせていただく。

○ラーニング・コモンズの開設 ～アクティブ・ラーニング空間～

近年、多くの大学で学習支援施設としてラーニング・コモンズの整備が進んでいる。ラーニング・コモンズは1980年代以降の米国大学図書館から生まれた言葉で、複数の学生が集まり、電子媒体や印刷物も含めた様々な情報資源を用いて自発的に議論や学習を進めることができる「場」を提供する。「コモンズ (Commons)」とは「共有空間」を意味するが、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを活用した学生の自学自習を支援するサービスの提供も含まれるが、実際の形態は運営主体や設置施設によって様々である。

文科省・中央教育審議会答申（平成24年8月24日付）では、「求められる学士教育課程の質的転換」として、知識の伝達や注入を中心とした従来型の授業から、学生が主体的に課題を発見し、解を見出していく能動的学習（アクティブ・ラーニ

ング）に転換する必要性を説いている。これに応じて、大学では学生が実際に獲得した能力、つまり学習成果を重視する方向の教育改革が進められており、学習成果を確実に身につけるための授業形式や教授方法の研究も盛んに行われている。

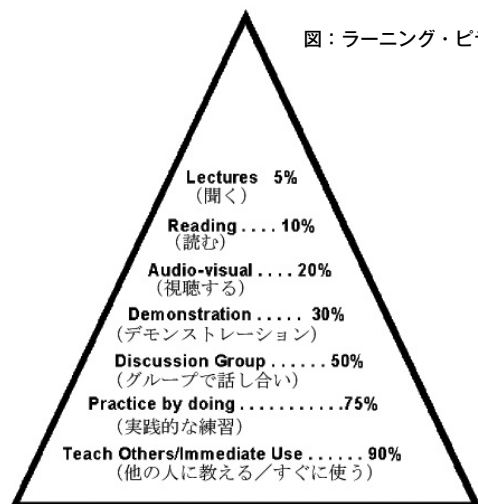
アクティブ・ラーニングの効果を説明する際によく引用されるのがアメリカ国立訓練研究所によって示された、様々な学習方法に対する学習定着率（忘れにくさ）の違いを表わすラーニング・ピラミッド（図参照）である。これは学習実施後、半年間を経過した時点での学習定着率を示すもので、ピラミッドの下にある学習方法ほど定着率が高く、上にいくほど（その時は理解できたとしても）定着率が低い、つまり頭に残りにくいことを表している。講義を聞くだけでは、その半年後には学習内容のわずか5%しか学生諸君の頭に残らないが、他者に教えることをすれば定着率が大幅に向上するというものである。

そこで登場したのが、「ピア・ラーニング」あるいは「ピア・サポート」と呼ばれるもので、「ピア (Peer=仲間)」とともに学ぶこと、つまり一方的に教育を受けるのではなく、学生同士が知識や情報、疑問を持ち寄って共有し、互いに教え合うことによって学びを深める手法である。そして、議論の中で意見の食い違いを克服し、新たな結論、成果を生み出す。

重要なことは、学びあう学生のグループが、それぞれ別個の部屋で議論するのではなく、複数のグループが同じ空間を共有することである。明るく開放的なスペースの中に様々な異なるグループが共存し、隣り合うグループ同士が横目で見ながら互いに刺激しあえば、さらなる学習効果を期待できる。このような能動的な学びを推進する場としてラーニング・コモンズは最適の環境である。ラーニング・コモンズ内の様子は、キャンパスを歩いている学生達から見ることができ、立ち寄ってみたい、自分たちも利用してみたいと感じさせる空間的デザインも重要である。

大学教育の質的転換が求められる今日、学習支援施設としてのラーニング・コモンズの必要性は

図：ラーニング・ピラミッド





ラーニング・コモンズイメージ
(九州工業大学
情報工学部HPより)



ビブリオバトル in 寝屋川
(寝屋川市立図書館
2014年2月15日)

ますます高まっており、本学でもこのような施設の早急な導入・整備が望まれる。実現に向けて大学・学園関係者の皆様のご理解・ご支援を切にお願いしたい。

○「ビブリオバトル」の開催

～本を通して人を知り、人を通して本を知る～

最近、新聞やテレビなどで「ビブリオバトル」という言葉を耳にすることが多い。これは「知的書評合戦」と称されるもので、近年多くの大学図書館や公共図書館などで定期的に開催されるようになった。「ビブリオバトル」は2007年に谷口忠大氏（現立命館大学准教授）が発案し、ルールの整備、公式ガイドブックなどによって発展し、「ビブリオバトル首都決戦」（全国大会）が開催されるまでに拡大普及している。

「ビブリオバトル」の公式ルールは次の通りシンプルで、スポーツやゲームと同じく、本が好きな人も、そうでない人も、集まれば誰でも気軽に本を通じてコミュニケーションを深められるシステムである。



- (1) 参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- (2) 順番に1人5分間で本を紹介する。
- (3) 各発表の後に参加者全員でその発表に関する質疑応答を2～3分行う。
- (4) 全発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とし、聴講参加者も含めて全員が1票ずつ投票し、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

特徴的なことは、本の紹介ではプレゼンツールや配布資料などを一切使用せず、言葉と身振りだけで聴衆の反応を見ながら説得することである。効果としては、①書籍情報を共有できる、②スピーチ能力が向上する、③良書が見つかる、④コ

ミュニティとして互いの理解が深まるなどがあるが、特に②の伝える力は学生諸君が実社会で活躍するために必須の能力であり、将来の就職活動などにも活かされるもので、教育的効果も高いと思われる。

「ビブリオバトル」のコンセプトで重要なものは「本を通して人を知る、人を通して本を知る」ことで、参加することにより、他の人を通してその本に出会い、自分の知的好奇心や知識欲が掻き立てられる。また、その本を通して新たな知人ができ、その人の考え方をすることもできる。つまり、本を通じてコミュニケーションを深めるのに大きな効果がある。

本学図書館でも、このように楽しくて読書の啓蒙にも繋がる「ビブリオバトル」を、各学部やキャリア教育、教職教育などの先生方のご理解とご協力を得て、今後積極的に推進し、全学的に広めて行って頂きたい。さらに、学生諸君を巻き込んで図書館長杯争奪「ビブリオバトル」大会などが開催できれば素晴らしいと考えている。

ラーニング・コモンズやビブリオバトルは、学部や学年を横断して学生同士が互いに啓発し、絆を深めあう仕組みを提供するもので、本学の特質である“Smart and Human”を具体化するためにふさわしい施設や手法であり、すぐにでも実現できればと思う。

—ある日の夕方、明るく灯がともるラーニング・コモンズのあちこちに学生達が集い、議論しているグループやプレゼンを練習するグループなどが見かけられる。また、一つのコーナーでは「ビブリオバトル」が開かれ、学生達がコーヒ一片手に本を語りあっている。屋外からもその楽しげな様子が見え、熱気が伝わって来る。

本学のキャンパスで、近い将来そんな風景が展開されている様子がまるで夢のように目に浮かんでくる…。

読書と地図年表による知のネットワーク

理工学部 教授 佐野 潤一

建築家ミース・ファン・デル・ローエと読書

二千年前古代ローマ帝国の建築家ウィトルウィウスは建築の条件が「強」「用」「美」であると主張したことで有名です。彼の残した『建築十書』は建築界のバイブルとも言われ、その中で彼は「建築家の知識は多くの学問と種々の教養によって形成される。・・・建築家は文章の学を解し、描画に熟達し、幾何学に精通し、多くの歴史を知り、努めて哲学者に聞き、音楽を理解し、医術に無知ではなく、法律家の所論を知り、星学あるいは天空理論の知識をもちたいものである。」と述べています。つまり、一人前の建築家になろうと思えば、例えば、これらの分野に関する読書を通じて、膨大な知識を得る必要があると言うのです。

ウィトルウィウスから二千年後、ガラス張りの高層ビルで世界中の都市のスカイラインを決定づけた近代建築の巨匠ミース・ファン・デル・ローエは、自らの建築理念が三千冊にも及ぶ読書から形成されたと述べています。ミースもウィトルウィウスの教訓に従って読書し、巨匠と呼ばれる建築家になったのです。

私流知識蓄積術

私はこのミースの建築やその背景となる理念を研究していますが、三千冊にも及ぶ本から形成された彼の建築を理解するためには、それに負けないほどの読書が求められるかもしれません。もちろん、そこまでは到底至りませんが、多くの本を読み研究する中で私流の読書術、というよりは知識蓄積術を持つようになりました。

一冊の建築の本を読んで、建築の素晴らしい空間や技術、建築家の思想や時代や建設年号など様々な知識を得たとしても、残念ながら時とともに忘れてしまいます。しかし、また別の本を読んだ時、過去に読んだこれらの言葉や事柄、人名などに会うことがあります。例えば、歴史や哲学、文学や音楽など全く別の分野の本の中で建築や建築家の名前などに出くわした場合、旅先で古い友人と偶然再会し、一層親密さが増すように、それらは急に身近なものに思われ、また忘れ難い知識となります。さらに二つの本の中の他の事柄同士も繋がり合ってくるかもしれません。

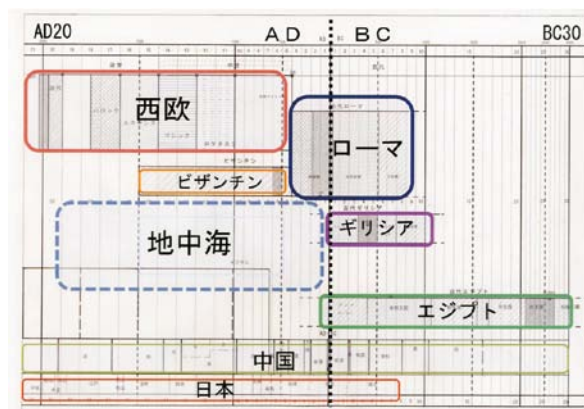
このことは個別の記憶よりはネットワーク化された記憶の方が数段忘れにくいということでしょう。しかし自然発生的な記憶のネットワークはかなり偶然に左右されます。そこで予め基本的なネットワークの骨組みを作っておけば、読書から得られた知識がそのネット上で出会う機会は格段に向上すると考えられます。私は建築設計が専門ですので何事も図化するのが好きです。そこで、読書で得た知識を次々とできる限り関連付けられた記憶として蓄積し、生かすために、西洋の歴史と地図を組み合わせた西洋地図年表とでも言えるネットワークシートを作っています。

西洋地図年表

地図は地中海を取り巻く地域に限定され、位置関係も随分と大まかです。まず横長シートを用意します。シート中央左側の横長スペースを地中海とし、その南東つまりシートの右下部分をエジプト文明のエリア、その北西、つまり左上のエリアがギリシア文明です。やや無理がありますが、ギリシアの北西、つまりギリシアの左上からシートの左端までをイタリアなどを含む西欧諸国のエリアとします。

次はこの地図上に年表を載せます。西洋の歴史の流れはエジプト文明からギリシア文明、ローマ文明そして西ヨーロッパの文明へと至ります。つまりこの地図年表では時間は右から左へと進みます。

年表をつくるために先のエリアをそれぞれ横長の帯にします。エジプト文明の始まりをほぼ紀元前30世紀として現代までの約5000年間をシートの横幅全体で



西洋地図年表



表現します。目盛を現代に近づくほど大きくすると図の中央やや右が紀元元年、右が紀元前 (BC) の3000年間、左が紀元後 (AD) 2000年間です。ここでネットワークの感度を上げるために、シート最下部に日本の年表、その上に中国の帯も作ります。

エジプト文明から20世紀

右下のエジプト文明の帯はほぼ紀元前30世紀から紀元1世紀まででシートの右端から中央までの長さとなり、いかに長期文明であったかが一目瞭然です。右から、つまり古い方から時代区分は初期王国、古王国、中王国、新王国、末期王国、グレコローマンとなり、例えば、有名なギザの三大ピラミッドは紀元前26世紀でエジプト文明の帯の右端近く、帯の真ん中当たりが黄金のマスクで有名なツタンカーメン王の時代、最後の左端近く、紀元前1世紀末にはあの絶世の美女クレオパトラがいます。その上のギリシア文明の帯は紀元前10世紀頃からシート中央の紀元元年頃までで、右から幾何学期、アルカイック期、クラシック期、ヘレニズム期、ピークはクラシック期で哲学者ソクラテス、プラトン、西欧建築の原点、パルテノン神殿が建っていた紀元前5世紀とアレキザンダー大王、その家庭教師も務めた大哲学者アリストテレスのいた紀元前4世紀です。次のローマ文明の帯は紀元前8世紀から紀元4世紀で、右から王政期、共和制期、帝政期ですが、パックスロマーナ、つまり全盛期は紀元1、2世紀の約200年間です。帝政期の始まる直前、紀元前1世紀末には英雄ジュリアス・シーザーが活躍し、この図を真下に辿ると縁浅からぬクレオパトラが待っています。紀元100年頃にはローマの円形闘技場コロセウムで猛獣と人間の死闘に市民が熱狂していたのです。紀元4世紀末、ローマ帝国は東西に分裂、そこでローマ帝国の帯の下方部を東ローマ帝国、ビザンチンとして紀元1500年頃まで帯を作ります。ただしピークはコンスタンティノープルにユスティニアヌス皇帝とテオドラ王妃が君臨し、ハギア・ソフィア大聖堂の大ドームが聳えていた6世紀です。ローマ帝国の残りの帯から左に延びる現在までの西欧諸国の帯を作ります。まず西欧が混沌としていた5世紀から10世紀の初期キリスト教建

築時代、そこからほぼ200年単位で、11,12世紀は斜塔で有名なピサ大聖堂などのロマネスク時代、13,14世紀は尖塔が聳え、ステンドグラスが美しいシャルトル大聖堂などのゴシック時代、15,16世紀はフィレンツェの大ドームなどのルネサンス時代、17,18世紀はベルサイユ宮殿のバロック時代と続きます。例えば、ロマネスクの始まる1000年頃、ピサの斜塔の時代、日本は平安時代の真っ只中、紫式部が寝殿造りの館を舞台に宮廷の恋物語、源氏物語を書いていたのです。ピサの斜塔と源氏物語の繋がりを知ることによって1000年頃の時代、ロマネスク、源氏物語の記憶がかなり強固なものになります。ルネサンスと真ん中1500年頃には万能の人レオナルド・ダ・ヴィンチが謎めいた微笑のモナ・リザを描き、日本では天才画家、雪舟が天橋立の水墨画を残しています。17世紀バロックの時代、太陽王、ルイ14世のベルサイユ大宮殿は金色に輝く煌びやかな装飾で飾られていました。時代は遡りますが、日本では天下人、豊臣秀吉がなんとたった二畳の粗末な茶室で千利休と茶を飲んでいたのです。18世紀末、マリー・アントワネットが断頭台の露と消えた頃、写楽の浮世絵、歌舞伎役者の大首絵が忽然と現れています。1900年、世界を支配してきたキリスト教を「神は死んだ」の一言で痛烈に批判したニーチェが没し、建築でもその頃、過去の全ての建築を排し、20世紀の建築を模索する様々な運動が出現し、その20世紀の建築を完成するミース・ファン・デル・ローエがドイツの片田舎アーヘンから世界都市ベルリンへ建築修行にやってきたのです。

オーダーメイドの知のネットワーク構築へ

地図年表を使えば読書で得られた知識を時代と場所に同時に関連付け、歴史全体と地域全体の中に位置づけ、さらには何の関連性もない事柄との共時性や共通性を発見する楽しみも味わえます。何よりも忘れ難い記憶になってくれます。地図年表をベースに読書で得られた様々な知識からオーダーメイドの強力な知のネットワークを構築してみませんか。

図書館を組織論的に考えてみる

経営学部 教授 岩田 浩

長年、マネジメント、つまり組織をうまく管理することに関心をもっていると、ついつい何事もそういう視点から考えてしまう癖がついてしまった。したがって、今回、大学の図書館報『学而』に拙文を記載するにあたって、やはりそうした視点から「図書館」について私なりに思いついたことを書き留めていくことにする。

図書館とは、平たく言えば、「広くその利用者にとって有意義な書物・情報を提供する公共的な場」と捉えられよう。それは、当然、多くの人々の協力なしでは運営することはできない。その意味で、図書館は、チェスター・I. バーナード（彼は「近代組織論の祖」と評される）流に言えば、1つの「協働システム」と見なせるのである。

ところで、バーナードによると、協働システムとは、物的システム、人的システム、社会的システムが調整システムとしての公式組織を通して、統合されることによって成立する。そこでまず、この彼の枠組みに即して、図書館という協働システムを考えてみよう。

言うまでもなく、図書館には、蔵書、雑誌、新聞といった基本的な資産はもとより、その有効な利用を支援するためのさまざまな検索システムやデータベース、利用しやすい書架、集中して読書や研究に専念できる机や椅子などが揃っていないといけない。これらが図書館固有の物的システムを構成しよう。

また、図書館には、それを利用する学生、教職員、市民と、そこで働く職員、さらにはそこに出入りする業者などが存在する。これらがその人的システムを構成する。

こうして、図書館という公的空間にさまざまな人々が

日常的に集うとき、そこには何らかの人間関係が自然に成立してこよう。それは、単に職場レベルに止まらず、利用者と職員との間にも形成されうる。ちなみに、個人的な経験として、前任の大学図書館の蔵書スタッフと親しく接触するうちに、いつしか彼は私が興味をもちそうな新着図書をEメールで逸早く知らせてくれるようになった。このように、日常的協働の場では、こうした人間関係が多分に無意識のうちに形成されるのであり、これがその図書館独自の社会的システムとなるのである。

このように、図書館を1つの協働システムと見立てたとき、そこにはそれ特有の物的・人的・社会的システムが存在することが理解できた。だが、そのままでは、図書館は機能しない。それは、公式組織を通して、これら3つのサブ・システムがうまく調整・統合されることによって初めて機能するのである。

では、公式組織とは何か。先のバーナードによると、それは「2人以上の人々の意識的に調整された活動のシステム」と定義される。それは、協働システムの中核システムであり、それなしには協働は機能しない。だとすれば、この公式組織を成立させ、それを持続させることが協働システムの維持・存続にとって決定的に重要になってこよう。そして、それを担うのがマネジメント（管理）にほかならないのである。バーナードによると、公式組織の成立には、共通目的・協働意思・コミュニケーションの三要素が不可欠であり、管理はそれら三要素に対応した形で、意思決定・モチベーション・組織構造の設計という三機能から構成される。

このバーナードの管理論を敷衍すると、図書館をマネージするには、①その協働目的（「利用者に対して



有意味な書物や情報を提供すること」といった類のこと)を定式化し、それを実現するために、各担当部署で具体的な案(手段)が練られること、②こうした協働目的の達成にスタッフが積極的に貢献してくれるようモチベートすると同時に、利用者が読みたい書物や知りたい情報、落ち着いて読書できる環境などの誘因を継続して提供し、彼／彼女達の足が自然とそこに向かうよう働きかけること、③そのために、最新の図書館情報を適宜広く内外に開示するとともに、利用者の要望をうまく吸収できるような円滑なコミュニケーション・システムを構築すること、といったことが要請されよう。こうした管理作用がうまく機能し、その公式組織が継続して成立しうるとき、協働システムとしての図書館は、長期的に存続することができよう。

ところで、組織は長期的に存続するうちに、その存続自体に価値を見出すようになる。一般に、その過程を「制度化」と呼ぶ。そうであれば、図書館も長期的に存続する過程で、それ独自の文化や価値を具現した1つの「社会的制度」になるものと考えられる。

一例として、1997年から98年にかけて私がオレゴン大学に留学していた際、ほとんど毎日利用していた図



オレゴン大学 Knight Library (同大学 HP より)

書館——それは、120年を超える歴史とともに、私がこれまで感じたことのない独特な風土を醸し出していた——を取り上げてみたい。由緒ある美術館を彷彿とさせるような壮大な建物は、周囲を多くのオレゴン杉の大木で囲まれていた。そうしたクラシカルな外観とは対照的に、館内のあちこちには端末機が設置され、図書館のIT化も逸早く進められていた。このように、古き良き伝統の中に新たな息吹を吹き込みながら存続してきたオレゴン大学図書館は、公立大学ゆえ、教職員のみならず広く一般市民にも開放され、平日は早朝から深夜、土日も19時まで開館され、年末・年始の数日を除き休館日はなかった。実際、土日にもなると、開館前から、近隣の老若男女が行列を作って並んでいた。

こうして、その運営を脈々と担ってきた図書館職員・スタッフの永続的な働きとも相俟って、同大学図書館は、単に図書サービスの提供といった協働システムのレベルを超え、さまざまな利用者が集い、その空間を通して学習し、構想に耽ったりしうる創造的なコミュニティとしての役割を果たしてきたものと考えられる。おそらく、その多くの利用者は、伝統ある同大学図書館の存在そのものに価値を見出してきたはずだ。このようにして制度化した図書館は、新参者に対しても独特なムードをもって迎えてくれる。

こうして見ると、良い図書館とは、良き伝統に裏打ちされた独自の文化や価値を反映した社会的制度であると言えよう。そして、このような制度化をうまく成し遂げられるか否か、ここに図書館のマネジメントの真価が問われてこよう。

貴重資料「伴大納言絵詞」の特別展示開催！

2014年1月22日（水）から約2週間、図書館本館において大阪工業大学図書館所蔵の貴重資料「伴大納言絵詞（ばんだいなごんえことば・考古学会1910年複製）」の特別展示を行いました。これは学園内大学の連携事業の一環として、学園内大学図書館がそれぞれ保有する貴重資料の有効利用を図ろうとの呼びかけにより実現したもので、今回初めて大阪工業大学図書館から借用して展示を行いました。



本資料は貞観8（866）年の「応天門の変」を題材とした大納言伴善男（とものよしお）の策謀と失脚を描いたもので、作者は常盤光長と推定されています。「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「鳥獣人物戯画」と並んで我が国の四大絵巻と称されており、その特徴としては平安時代の人々を描いたものとして優れ、特に検非違使の活動を伝える意味で史料価値の高いものです。



図書館に足を運んで鑑賞した人々は平安時代にひと時タイムスリップしながら、絵巻の世界を楽しんでいました。

図書館デジタルアーカイブ

西洋古版日本関係地図コレクションを公開！

図書館では、1990年代前半に個性あるコレクションを収集して、蔵書構成の特色化を図るとともに、学内・外の研究の発展に寄与することを目的として、コレクション形成事業を実施しました。これらは貴重資料として現在も図書館に所蔵・保管されていますが、この度、その資料の一部をデジタルアーカイブとして広く一般公開することにしました。

今年度公開したのは、国際言語文化学部（現・外国語学部）を中心に収集した15世紀半ばから17世紀初頭の大航海時代にヨーロッパにおいて作成されたアジア・日本周辺などの古地図4点です。

当時のヨーロッパ人のアジア・日本に対する認識を視覚的に理解できる貴重な資料ですので、図書館のホームページからぜひ一度ご覧ください。



日本島図（1595年）

枚方分館ニュース

分館は、2011年度に館内の壁を取り除くなどの改造工事とレイアウト変更を行って、開放感のある明るい雰囲気になりました。2012年度には保存書庫の増床および電動集密書架の分解整備をし、資料の保存性を向上させ、閲覧室では古くなった椅子を新しく入れ替えて快適性を確保しました。2013年度にも図書館の利便性向上のため、利用者の皆さんの声を図書館サービスに活かせるように活動しました。そのごく一部ですが紹介します。

無線LAN導入で利便性が向上

「パソコンを持ち込んでも学内 LAN が利用できない」、「図書館のパソコン以外で、自由な席で図書資料のすぐ近くで自由に情報を扱いたい」といった利用者の声を7月から実現しました。

情報メディアセンター利用登録者であれば分館内の各所で自分のパソコンや携帯端末を使って学内教育用 LAN を無線で利用でき、インターネット接続が可能になりました。

図書資料の検索や各種情報やデータベースなどが、自由な席で手元の資料を開きながら利用できることで利用者には好評となっています。

しかし、著作権法上の制約から情報の活用には、「不法なコピーをしない」、「情報の出典元を明確にする」等、利用者には十分な配慮や注意が必要です。



“写真と図書 コラボ展示会”を開催



特集展示コーナーでは、約1ヶ月期間ごとに特集テーマを選び、それに関連する図書資料を展示・案内しています。

10月は“バラ”をテーマに図書資料とともに、薬学部・大塚正人教授のご協力を得て、先生がご自宅で愛情を込め育て、観察しながら撮影されている多くの花々の写真を展示しました。

展示期間中、館内の一角に色鮮やかなバラを始めとする花々の写真と見開きの資料が並び、ちょっとした花壇が出来上がった様子はまさに華やかでした。分館を利用する皆さんの目に留まり足を止め、それぞれに笑みを浮かべながら見入る利用者は多く、好評を得ていました。

利用者参加の選書フェアを実施

選書フェアは、学術雑誌ゾーンに設けられた臨時ブースに医・薬・看護学および一般書籍を数多く集め、7月1日から5日に開催しました。

利用する学生や教員も自由に選書することが可能で、希望図書として扱われます。



〈選書フェア2013年7月1日～5日〉

今回、希望の資料のうち109冊の資料が購入されており、既に利用されています。

図書館では、平素から利用者の皆様の声を大切にしたいサービス活動を行っています。

《2013年度特集展示一覧》

No.	時期	展示内容
1	5月	闘病記
2	6月	不思議な生き物
3	9月	選書フェアで選ばれた本
4	10月	バラ特集(本と写真展)
5	11月	療養食レシピ
6	1月	看護記録
7	2月	詩と哲学

図書館利用統計

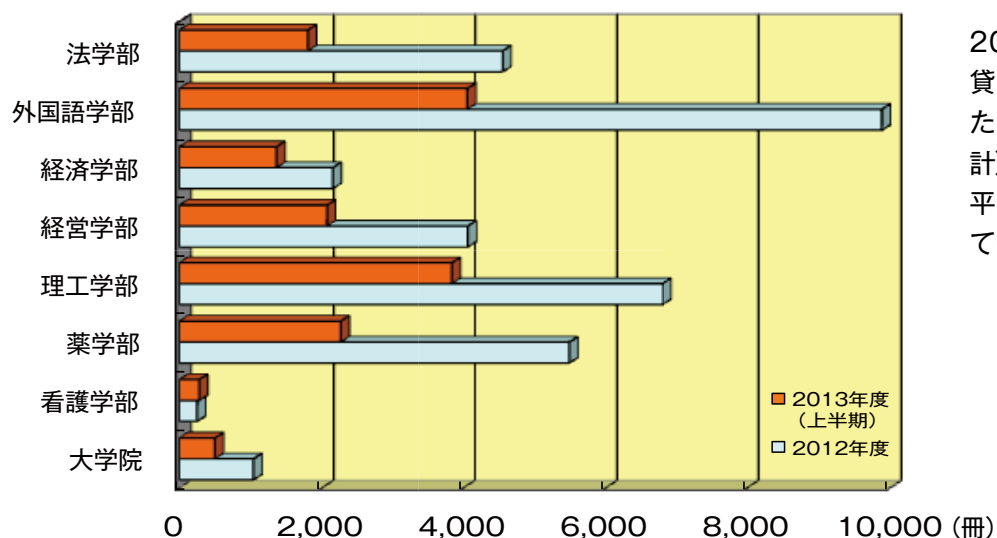
図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。
ここでは最新の利用統計と、学部別貸出冊数等について報告します。

図書館利用状況 (2012年度実績)

区 分		本 館	分 館	計
開 館 日 数	2012 年度	276日	285日	—
	2011 年度	275日	275日	—
入 館 者 数	2012 年度	299,054人	92,888人	391,942人
	2011 年度	276,585人	81,678人	358,263人
貸 出 者 数	2012 年度	19,002人	4,017人	23,019人
	2011 年度	20,585人	3,862人	24,447人
貸 出 冊 数	2012 年度	37,780冊	7,886冊	45,666冊
	2011 年度	38,347冊	7,314冊	45,661冊

2012年度は、本館では入館者数は増えたものの、貸出は減少しました。分館は会館日数が増えたこともあり、すべての項目で1割弱程度の増加がありました。

学部別貸出冊数 (2012年度・2013年度上半期)



2012年度は外国語学部の貸出が非常に多い年でした。今年度(上半期までの統計)は、他の学部はおおむね平年通りの貸出推移となっているようです。

2013年4月～2014年1月 貸出トップ5

タイトル／著者	貸出回数
空飛ぶ広報室 / 有川浩著	16
百年法 上 / 山田宗樹著	16
世界から猫が消えたなら / 川村元気著	16
置かれた場所で咲きなさい / 渡辺和子著	15
永遠の0(ゼロ) / 百田尚樹著	15

2013年度も話題になった本や映画化された本の関連本がよく読まれました。その他、例年よりも小説の貸出が多い傾向になっています。

※資格・就職に関する本は除いたランキングとなっています。

図書館員おすすめの本

ペロー童話集 2010年：シャルル・ペロー作；ハリー・クラーク絵；荒俣宏訳

この童話集は、みなさんが知っている赤ずきんやシンデレラなどのお話が入っています。他にも名前は知られていなくてもグッと引き込まれるような面白いお話がたくさんあります。特におすすめしたいのは「青ひげ」です。好奇心にとらわれて、青ひげとの約束が守れなかった妻は最後にどうなるのか…。また、話の終わりにそれぞれ教訓が書かれていますので、それも楽しみに読んでいただきたいです。

本館2F普通図書フロア 請求記号：953.5/P 資料ID：21302239

ソロモンの偽証〈事件・決意・法廷〉 2012年：宮部みゆき

壮大な三部作です。宮部みゆきの長編ミステリーが好きな人は一気に読める作品です。事件から始まり、主人公達の決意から最後には法廷へと話がどんどん進んで行き、最後には誰もが驚く結末が待っています。是非、読んでみてください！

本館2F普通図書フロア 請求記号：913.6/M

資料ID：＜事件＞21206143

＜決意＞21206142

＜法廷＞21206141

日本一社員がしあわせな会社のヘンな“きまり” 2011年：山田昭男

「日本一社員がしあわせな会社」未来工業とは、一体どんな会社なのか？それは、「経営者」と「労働者」の両方が幸せな会社。多くの企業では、経営者にとっての幸せだけが優先されてしまいがちですが、未来工業ではまず社員の幸せが最優先に考えられています。労働や企業の将来を考えるために欠かせない1冊です。

本館2F普通図書フロア 請求記号：541.6/Y 資料ID：92131330

空飛ぶ広報室 2012年：有川浩

P免新人広報官×どん詰まりの美人TVディレクター、「なりたいものになれなかった者」同士初めは噛み合わない2人が傷つけ合いながらも徐々に成長していく姿が微笑ましく感じました。今までの作品とは違い、恋愛要素は控え目なので有川作品が初めてという人でも読みやすいかと思います。また、どちらかというドキュメンタリーに近いので自衛隊について深く考えさせられる作品でもあります。

本館2F普通図書フロア 請求記号：913.6/A 資料ID：21206130

置かれた場所で咲きなさい 2012年：渡辺和子

図書館司書も推薦！「若い人に贈る読書のすすめ2013」の中の1冊です。人生に悩んだり、日常生活に疲れを感じたり、対人関係につまずいたり、生きていくことは様々なことに直面すると思います。この本には心が洗われるようなヒントがたくさんつまっています。

本館2F普通図書フロア 請求記号：159/W 資料ID：21204773

図書館利用者アンケート結果

図書館では利用者の皆さんの図書館に対する認識や要望を確認するため、毎年度アンケートを実施しています。

今年度は昨年の11月から12月までメインカウンター付近にアンケート用紙を置いて入館者に回答いただきました。また、同時に図書館ポータルサイトでも回答いただいた結果、今年度は昨年度の4倍近い多数の回答数となり、ご協力ありがとうございました。今後の図書館運営に活かしたいと思います。

本稿では、前年度との比較も含め、主な項目の集計結果をお知らせします。



1. 回答者数

132人(昨年度：34人) 内、ポータルサイト：12人(昨年度：16人)

【本館】：62人(昨年度：25人)

【分館】：70人(昨年度：9人)

2. アンケート集計

(1) 図書館をどの程度利用していますか。

本館	選択肢	教職員	学部生	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	ほぼ毎日	0	18	18	29.5	34.8
	週に2～3日程度	5	23	28	45.9	30.4
	週に1日程度	2	8	10	16.4	21.7
	月に2～3日程度	0	5	5	8.2	13.0
	月に1日程度	0	0	0	0.0	0.0
	試験期間のみ	0	0	0	0.0	0.0
	ほとんど利用しない	0	0	0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0

回答者の約半数が週に2～3日程度と回答しています。

分館	選択肢	教職員	院・学部生	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	ほぼ毎日	1	4	5	7.2	11.1
	週に2～3日程度	1	2	3	4.3	33.3
	週に1日程度	3	3	6	8.7	22.2
	月に2～3日程度	6	5	11	15.9	0.0
	月に1日程度	4	3	7	10.1	11.1
	試験期間のみ	0	21	21	30.4	0.0
	ほとんど利用しない	4	10	14	20.3	22.2
	その他	0	2	2	2.9	0.0

学生回答者の8割以上を薬学部の高学年次学生が占めたため、やや偏った利用傾向となっています。

(2) 図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか。

項目	本館	比率(%)	分館	比率(%)
教養図書	18	30.5	11	17.7
専門図書	21	35.6	28	45.2
参考図書	12	20.3	9	14.5
視聴覚資料	8	13.6	4	6.5
国内学術雑誌	5	8.5	9	14.5
外国学術雑誌	8	13.6	9	14.5
一般雑誌	11	18.6	14	22.6
電子ジャーナル	0	0.0	13	21.0
電子ブック	4	6.8	9	14.5
データベース	5	8.5	8	12.9
新聞	3	5.1	3	4.8
シラバス掲載図書	3	5.1	5	8.1
資格取得関連図書	13	22.0	3	4.8
文庫本・新書本	16	27.1	18	29.0

本館、分館ともに専門図書の充実を望む声が一番多い結果となっています。

次いで、本館では教養図書、文庫本・新書本、資格取得関連図書、参考図書の順、分館では文庫本・新書本、一般雑誌、電子ジャーナル、教養図書の順となっています。

※「その他」の記述式回答
 ・外国語の本[英語以外を特に](本館)
 ・TOEIC、TOEFLなどの参考書(本館)

(3) 図書館の環境についてどう思われますか。

良い3点、普通2点、悪い1点として平均点を算出しました。

項 目	本 館	前年度	分 館	前年度
資料の配置	2.5	2.5	2.4	2.3
閲覧席	2.5	2.3	2.4	2.0
案内表示	2.5	2.5	2.3	2.0
静寂性	1.9	1.8	2.0	2.1
視聴覚設備	2.3	2.3	2.0	2.0
パソコン設備	2.3	2.3	1.9	2.1
環境全般	2.4	2.4	2.3	2.1

本館、分館とも「静寂性」の評価がやや低い結果となりました。
分館では「視聴覚設備」「パソコン設備」の評価が次いで低い結果となりました。

※「その他」の記述式回答

- ・1階は静かですが、特に2階がうるさくて読書や勉強に集中できない(本館)
- ・試験期間は人が増えすぎて騒がしくなりやすい。(本館)

(4) 図書館の企画展示（特定のテーマの図書の展示）についてどう思いますか。

項 目	本 館	比率(%)	分 館	比率(%)
関心（興味）がある	29	46.8	23	37.1
あまり関心（興味）はない	29	46.8	30	48.4
企画展示は見たことがない	4	6.5	9	14.5

本館では約半数の方が興味（関心）を示していますが、分館では4割弱に止っています。

※テーマの要望

- ・人生について考えようと思わせる作品（本館）
- ・ある分野に特化、また時事ニュースに関連した資料（本館）
- ・医療系だけでなく、流行、話題になっているテーマ、世相を反映させたもの（分館）
- ・学生が興味をもてる「レポートの作り方」「情報の集め方」など実践的、事例的なもの（分館）
- ・宇宙（分館）

(5) 図書館のお知らせやサービス内容を主に何で知りますか。

項 目	本館回答数	比率(%)	分館回答数	比率(%)
ホームページ	21	36.2	10	18.2
Library Guide[冊子]	0	0.0	0	0.0
館内のパンフレット	4	6.9	5	9.1
館内の掲示	29	50.0	19	34.5
館外の掲示	10	17.2	15	27.3
図書館スタッフ	4	6.9	4	7.3
友人	6	10.3	12	21.8

本館、分館とも「館内の掲示」が最も多く、次いで本館では「ホームページ」、分館では「館外掲示」の順となっています。

(6) 次の目的で図書館を利用する場合、利用環境はどうですか。

良い3点、普通2点、悪い1点として平均点を算出しました。

項 目	本館	前年度	分館	前年度
レポート作成	2.5	2.1	2.3	2.5
自学、自習	2.5	2.2	2.2	2.5
グループ学習	2.4	2.2	2.0	2.3
図書閲覧	2.5	2.5	2.2	2.3
雑誌・新聞閲覧	2.4	2.4	2.2	2.3
視聴覚資料鑑賞	2.4	—	2.0	—

どの利用区分でも2点（普通）以上の評価でしたが、分館では「グループ学習」「視聴覚資料鑑賞」の評価がやや低くなっています。

(7) 図書館スタッフの対応についてどう思われますか。

	良い	比率(%)	普通	比率(%)	悪い	比率(%)
本 館	40	65.6	20	32.8	1	1.6
分 館	35	56.5	22	35.5	5	8.1

概ね「良い」との評価でしたが、今後もサービス向上に努めたいと思います。

ヨミダス歴史館

ヨミダスを使いこなそう!

図書館では様々なデータベースが利用できますが、特に新聞データベースは日々のニュースだけではなく英語版など外国語の記事を読めば語学の学修に、社会面や経済面からは就活に役立つ情報も手軽に検索することができます。その中でも今年度から新たに利用できるようになった読売新聞のデータベース「ヨミダス歴史館」についてご紹介いたします。

☆コンテンツ1 明治・大正・昭和(1874年から1989年までの読売新聞)



明治～昭和終戦直後ごろの記事には、現代の言葉で出しとキーワードを付けました。それによって、明治～昭和の紙面が一貫検索できます。

検索は、言葉を入力し、必要に応じて「検索期間」など他の条件を組み合わせで行います。検索結果は紙面1ページ全体で表示されます。該当記事には「赤ピン」が立ち、すぐに見つけられます。

☆コンテンツ2 平成(1986年から最新号までの読売新聞)



記事は年間30万件のペースで増えています。全国各地の地域版(沖縄を除く)が読めるのも魅力です。

検索結果は、テキストで表示。2008年12月以降の記事は「切り抜き紙面」が付ききます。

全文検索とキーワード検索の両方が使え、このうちキーワード検索では、漢字の読み仮名が登録されているため、ひらがな、カタカナでも検索できます。

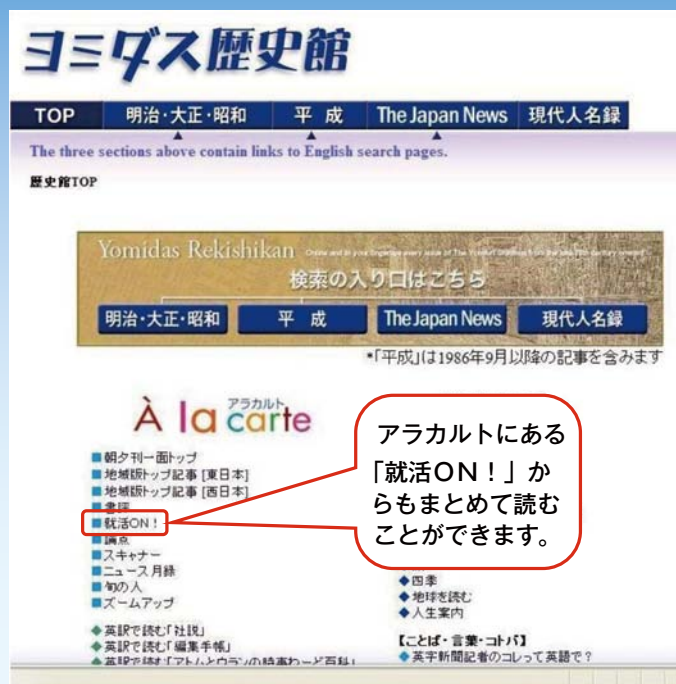
☆コンテンツ3 The Japan News(1989年から最新号までの英字紙)

読売新聞社が発行している英字新聞。「平成」に収録された邦文の関連記事とリンクが張っており(2011年8月～)、読み比べに便利。英和辞書が付いているため、画面上で日本語訳を調べられます。

☆コンテンツ4 現代人名録(26,000人のプロフィール)

現代の国内外のキーパーソン(一部故人を含む)の人物データ。当該人物の詳細データ画面から、同人物に関する記事をワンクリックで検索できます。

☆就活に役立てよう!



読売新聞の毎週火曜日付朝刊に「就活ON!」というページがあります。「平成」で検索語「就活ON」で検索すると、面接の臨み方から日本語講座まで、いろいろな角度から就活に関する有益情報やアドバイスをまとめた連載を読むことができます。

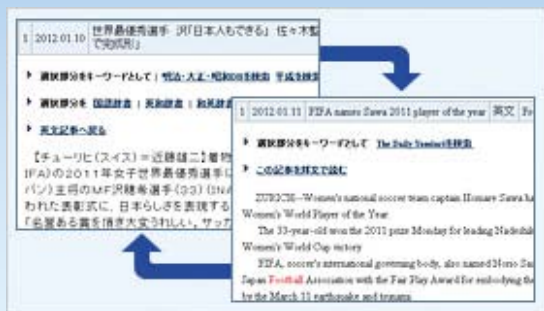
毎週火曜日朝刊掲載の「就活ON!」のページ 最近のニュースをおさらいするには、検索語「ニュース月録」「知っておきたいニュースはこれ」で検索します。月ごと、週ごとの主要ニュースをまとめて読むことができます。また、面接では自分の意見を簡潔に述べられるように準備しておくことが大切です。これに役立つのが、「スカナー」「論点」「基礎からわかる」などの解説記事です。「社説」や「編集手帳」には英訳へのリンクもあり、双方を読み比べれば英語の勉強にも役立ちます。

☆その他の便利な機能



「赤ピン」機能 記事の位置が一目で

明治～昭和終戦直後ごろの紙面は、見出しがなかったり、文字が小さくて、まるで活字の海。ここで威力を発揮するのが「赤ピン」。読売新聞が独自開発した機能で、該当記事には赤ピンが立つので、ひと目で分かります。



邦文⇄英文リンク機能

「The Japan News」は、読売新聞の翻訳記事などを収録しています。関連した英文記事と邦文記事がリンクしてあり(2011年8月～)、「比べて読めば英語の学習に役立つ」と好評です。

The Japan Newsの本文表示画面で、「この記事を読もう」をクリックすると、関連の邦文記事へジャンプします。



拡大縮小が自由自在。部分印刷も可能

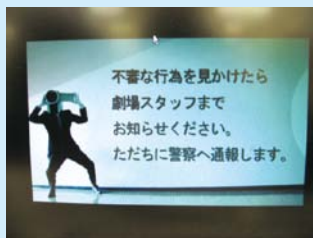
画面上部のボタンのほか、マウス中央のホイールボタンで、自由自在に拡大縮小できます。拡大した部分だけの印刷も可能です。

2013年度 摂大文化大賞入選作品決定!!

2013年度摂大文化大賞は作品募集の結果、合計36点の応募がありました。公開投票とそれに基づく図書館運営委員会での審査の結果、つぎのとおり入選作品を選定し、図書館本館で2月7日に表彰式を行いました。



賞	作品名	分野	学部	年次	氏名
大賞	映画始まる前のヤツ	動画	外国語学部	3	武島 信
優秀賞	night factory	写真	経営学部	4	土井 翔悟
入賞	① 風化しても尚、君は輝き続けるのか。。。	写真	理工学部	3	(筆名：面影のあるC科バーベキュー)
	② こいちゃんとサワガニくんの出会い	写真	外国語学部	3	(筆名：ななもん)
	③ 三重塔とサーチライト	写真	法学部	3	(筆名：蒼太郎)
	④ 鎧武者	絵画	外国語学部	4	伊達 駿
	⑤ 2013年の旅行記	紀行	薬学部	4	坂口 朋美
審査員賞	ねここの動物病院	小説	法学部	2	(筆名：抹茶ましろ)



大賞
[映画始まる前のヤツ]



優秀賞
[night factory]



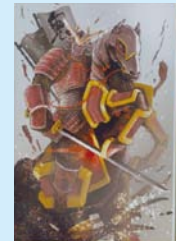
入賞①
[風化しても尚、君は輝き続けるのか。。。]



入賞②
[こいちゃんとサワガニくんの出会い]



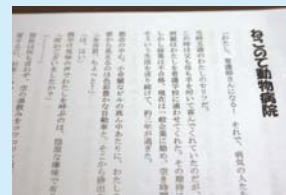
入賞③
[三重塔とサーチライト]



入賞④
[鎧武者]



入賞⑤
[2013年の旅行記]



審査員賞
[ねここの動物病院]

<編集後記> ・先日新聞報道があった第49回学生生活実態調査(全国大学生生活協同組合連合会)によれば、大学生の読書時間は1日平均26.9分(文系32.0分、理系24.2分、医歯薬系18.7分)で、同じ調査方法で調査している2004年以降最も短く、全く本を読まない学生は40.5%と初めて4割を超えたという悲しむべき状況です。スマートフォンの普及が読書離れを加速させているのでしょうか？本を読むことは自らを成長させる知力を身につけることです。そこで学生諸君の読書習慣のきっかけとなればと思い、館長の巻頭言どおり図書館では「ビブリオバトル」を普及させていきたいと思っています。多くの学生諸君の参加を期待します。

Smart and Human

常翔学園

摂南大学

「学而」摂南大学図書館報 No.95 2014.3

本館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8

分館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1

編集・発行 常翔学園 摂南大学 図書館

TEL.(072)839-9111

TEL.(072)866-3102

URL:http://www.setsunan.ac.jp

常に成長！前進！広がる常翔教育！

常翔学園グループ 摂南大学、大阪工業大学、広島国際大学、常翔学園中学校・高等学校／
常翔啓光学園中学校・高等学校